



志木市立志木小学校の取組

1 本校の概要

本校は明治7年に開校し、創立147周年を迎えた。現在、児童数836名、30学級（特別支援学級4学級）の大規模校である。平成15年には志木市の公民館、図書館を併設する学社融合施設となった。学校地域目標を「明るくあいさつのできる子 思いやりのある子 地域を大切にする子 意欲的に学ぶ子」とし、グランドデザインには、「一人一人が生き生き輝く学校」を位置付け、学校、家庭、地域が一体となった教育活動を推進している。



また、令和2年度から3年間、志木市教育委員会から国語科の研究委嘱を受け、「伝え合う力を高めることで、自分の思いや考えを広げることができる児童の育成」をテーマに掲げ、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫に取り組んでいる。

2 令和2・3年度の結果

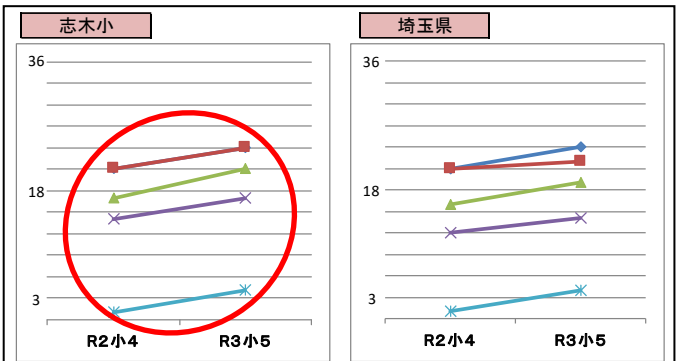
小学校4年生→小学校5年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学力の伸びの状況



- 学力の伸びが県平均を2上回るとともに、学力のレベルが県平均を3上回っている。
- どの学力層の児童も学力を伸ばしている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 県学力・学習状況調査を活用した課題解決の取組

県学力・学習状況調査の結果の分析から記述式問題に課題があることがわかった。課題解決のために、学年ブロック毎に話し合いをもった。国語の授業を中心としながらも、教科横断的に自分の考えを書く機会を増やし、肯定し合う時間を確保していくことや、感想文を書く場合であっても条件（言葉の指定、文字数、段落数）を示して書くことを指導した。漢字・ことわざ・慣用句は辞書を使いながら全教科で活用した。学級掲示板に児童の感想文を多数掲示し、書くことへの意欲を育んできた。校内研修では、言語活動は方法であり目標ではないことを確認し、研究を進めた。

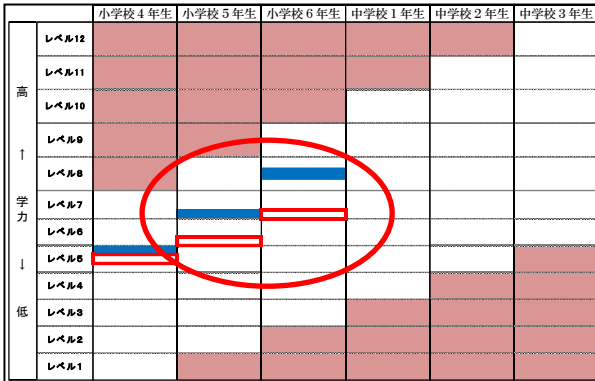
イ 図書館教育部と連携した環境整備

的確に情報検索を行ったり、情報手段の適切な活用したりする力を身に付け、主体的な学習を進めるためには、読書量を増やすことがポイントであると考え、単元の学習に関連した図書を揃え、並行読書を推進した。校内の言語環境を整備するため、月曜日は朝読書、木曜日は国語タイムを設定し、話す・聞く活動を取り入れた。併せて志木市立いろは遊学図書館と連携し、児童の司書体験活動や読書冊数が多い児童を積極的に表彰するなど、読書活動の充実を図った。

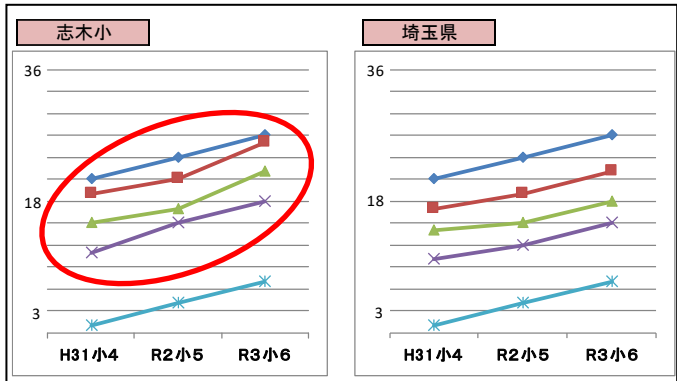
小学校5年生→小学校6年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 学力の伸びが県平均より2上回るとともに、学力のレベルが県平均を4上回っている。
- 全体的に学力の伸びが見られるが、特に中位層がより伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 授業展開の工夫

- ・個に応じた指導や支援をより効果的に行うために、単元によって、一斉指導や少人数指導など学習形態の工夫を行った。また基礎的な知識を定着するために、ミニプリントの作成やコバトン問題集を活用し、授業の開始時や家庭学習で取組を推進し、つまづきを早期に発見し指導することで、児童が意欲的に取り組むことができるようになった。
- ・指導と評価の計画を見直し、ねらいを達成するためのスモールステップの設定と、個の課題に応じた声かけと手立てをもって授業に臨み、ねらいに沿った児童間での学びができたか、できないことができるようになったか、学習を通してさらに学びが深まったかなどの視点で振り返り、教師自身が授業改善に努めた。

イ 伝え合う力の育成

- ・児童が意欲的に課題に取り組むために、コンパクトでインパクトのある導入の視点を持ち、問いを生み出し、課題解決の見通しをもたせ、自力解決を支援した。数学的な思考力、判断力、表現力等を育成するために意図的に話し合い活動を取り入れた。対立的な状況を引き出し、数学的な考え方を育むために、児童に課題意識をもたせた上で、図や表などを用いて思考を整理することで、明確に説明できる体験を重ねた。教師が伝えたいことは児童から引き出すように努めたことで、児童が意欲的に授業に取り組むようになった。教師の話す時間、児童が考えたり深めたりする時間という視点で授業マネジメントに努めた。

学校全体での取組

ア 学習環境の整備・充実と学習規律の徹底

- ・「環境は人をつくる」を合い言葉に、授業開始前の机の整理整頓や授業規律の確認を行った。また、低・中学年を中心に、本市のスマート教員（市独自の加配教員）を配置し、複数の教員による少人数指導に力を入れた。少人数の分け方を「学力」「生徒指導」に重点を置き、単元によって分け方のねらいも変えた。間違いが許される温かな学級環境のもと、学習に集中し意欲的に取り組む児童が増えてきた。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現と児童の活動時間の確保

- ・「どのような力を身に付けさせたいのか」「どう学ぶのか」を視点とした教材研究を行い、まとめと振り返りの区別と振り返りを充実させることの共通理解を校内研修で図った。また、教材の提示や個に応じた学習、調べ学習、意見交換、発表や話し合い、まとめと振り返りなどの学習活動で、指導の目的やねらいに応じたICTの効果的な活用を推進した。